

「形原温泉ロータリー」  
(金平町)

形原は先史時代、袋川上流の形原神社辺りを中心に村落ができ、山側には広範囲に貝塚などの遺跡や古代の古墳が多く遺されています。この地は明治の初め、戸金と平地が合併して金平村となり、後に小村が集まり形原町となった経緯があります。



現在の景色

昭和26年に温泉が発見され、私の小学生の頃は、お盆に親類が集まった折、「形原温泉へ行かまいか」と言って、名鉄鹿島駅から大勢が徒歩で唯一の大衆浴場「形原荘」へ行ったものです。その後、高度成長期に三ヶ根ロープウエーや三ヶ根山スカイライン開通などの観光開発が行われ、温泉旅館が立ち並びにぎわいました。

近年は、昭和62年にスカイラインから補陀ヶ池の一带に33,000本のあじさいを植え、「あじさいの里」を創設し、年間を通してライブなどの各種イベントを開催して振興を図っています。

この絵は、ロータリーの正面を少し外し坂上の奥を見ると、各建物が夫々主張しながら頑張っている様子が面白いと思ひ描きました。ホテル・旅館はロータリーの外側にあり、視野に入っていません。



樹木医・技術士(建設部門) 原野 幹 義

「角丸うずまき・マンサク」

立春のころ、まっ先に咲くことから「マンサク」と名付けられたとも言われています。咲き始めのころは細く伸びた花びらが、端から折るように丸められています。小さなつぼみの中に長い花びらをおさめておく花の知恵でしょうか。まるで緑日で吹いた巻鳥(笛)や昔懐かしい赤茶色のラーメンどんぶりの中華模様のようなです。やがて日が経つにつれて花びらがピンッと伸び、渦巻きは見えなくなります。



早春を感じる花は何でしょう。宮崎の学び舎では桜の前に梅の花見が盛んでした。もちろん見るだけの花見ではなく、梅香の下で芋焼酎(今でこそ全国区での市民権を得ましたが)での宴が始まるのです。ところが東京で暮らし、マンサク、アブラチャン、サンシュユなどとお会い、早春を告げる花は、淡い黄色だと感じるようになりました。長く寒い冬を過ごす地域では、本当に春の訪れは待ち遠しく、うれしいものです。陽光に輝く淡い黄色の花を里山で見つけたとき、華やかな赤でもなく、無彩色の白でもなく、淡い黄色であることに日本の四季の情緒を感じます。

目次 Contents

市役所の仕事 見直しています	3
申告はお早めに	4
市県民税の変更点	5
乳幼児医療の助成対象が拡大されます	6
元気な地域活動を紹介します	7
ホームフレンド事業をご存じですか	7
MYスクール・図書館だより	8
まちの達人・読む水族館	9
遊びにおいでよ児童館へ	10
健康カレンダー	11
市民相談	12
お知らせ	13-21
クイズまちがいさがし・編集後記	22
ふれあい宅配便	23
福祉まつり・ハートイン東三河	24
こどもミュージアム	24